

資料2

前橋市社会福祉審議会
第6回高齢者福祉専門分科会
H29. 10. 26

(2)居宅介護支援事業所アンケート調査の結果について

2017年10月26日

①居宅介護支援事業所アンケート調査結果

アンケート調査の概要／利用者の状況

■ 調査の目的

今後の基盤整備等の方向性を検討するのにあたり、利用者の状況と各サービス事業所の充足度等を把握するために調査を実施

- 調査期間 平成29年8月18日～平成29年9月1日
- 調査対象 市内居宅介護支援事業所(126事業所)＋市内介護予防支援事業所(10事業所)＝計136事業所
- 回答率 52.2%(71事業所)

■ 利用者の状況

区分	人数(人)	割合
利用者	7,550	-
そのうち、サ高住等に入居	1,143	15.1%
そのうち、在宅で夜間のサービス利用が必要	331	4.4%
そのうち、在宅で医療処置が必要	273	3.6%

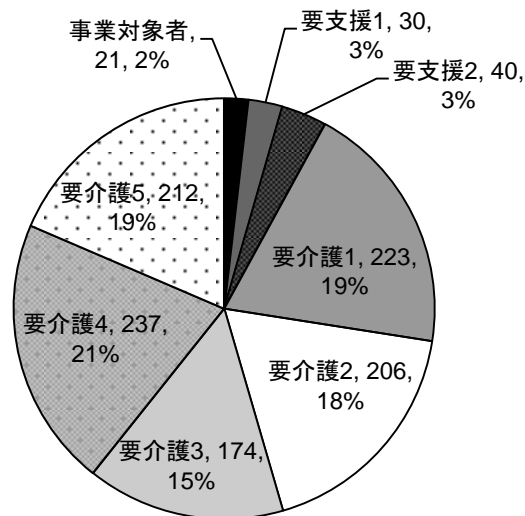
- 居宅サービス等を利用している方のうち、15%はサ高住等に入居している。
- 在宅で夜間のサービスや医療処置の必要な方は5%未満と少ない。

⇒ 夜間対応が必要な人や医療処置が必要な人は、在宅で対応できるサービスが少ないため早い段階でサ高住等に移っていると思われる。

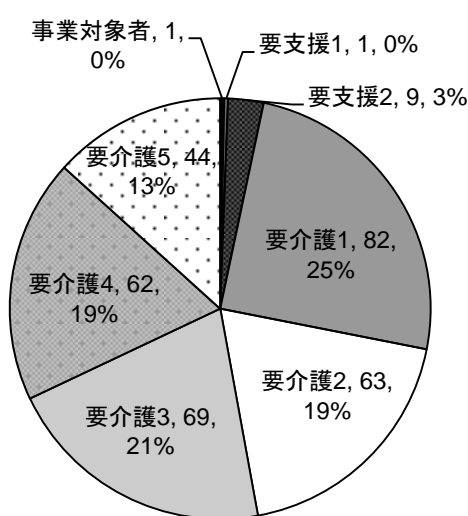
①居宅介護支援事業所アンケート調査結果

利用者の状況(要介護度別の割合)

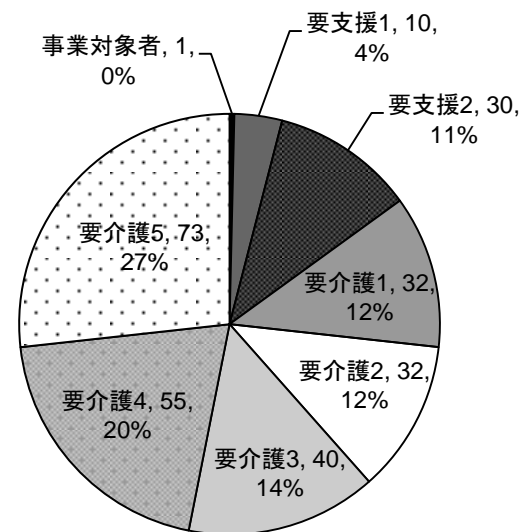
◆サ高住等に入居(n=1,143)



◆在宅で夜間のサービス利用が必要(n=331)

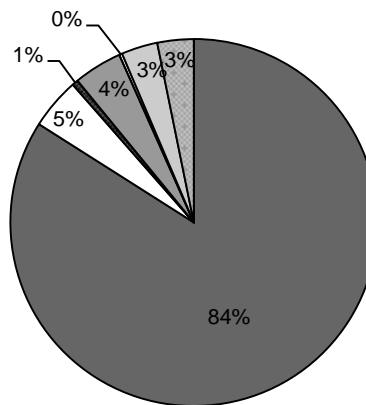
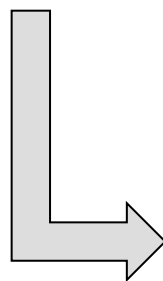


◆在宅で医療処置が必要(n=273)



・夜間のサービス利用が必要な人の90%は泊まりのサービスを使っている。そのほとんどが、ショートステイであり、一定のニーズがあることが分かる。

・夜間を訪問介護で対応するのはわずか5%。在宅で受けられる夜間の居宅系サービスが少ないのが現状である。



- ショートステイ
- 訪問介護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 通所介護の宿泊サービス
- 小規模多機能型居宅介護の短期利用
- 利用者のニーズに対応できない場合がある
- その他

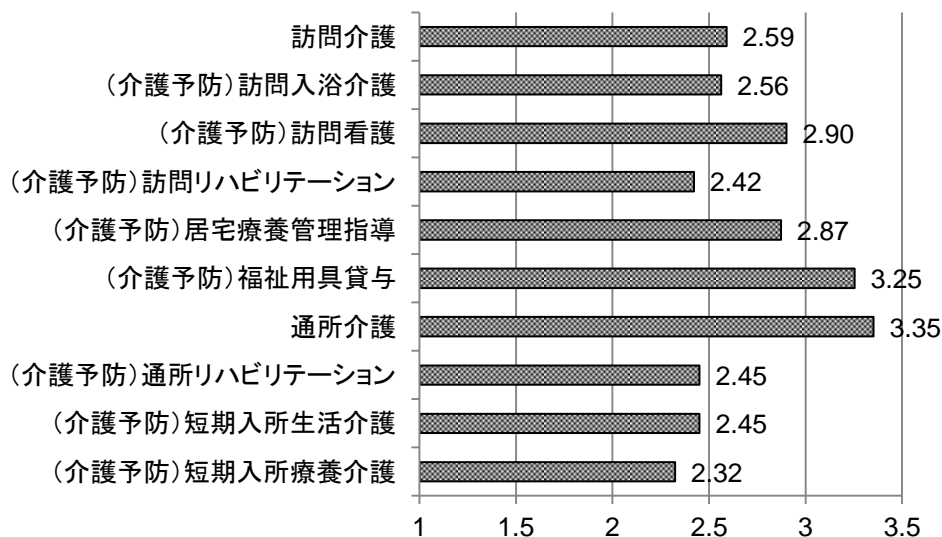
①居宅介護支援事業所アンケート調査結果

介護保険サービスの量的な充足感

【質問】本市のサービスの量的な充足感について、1:不足、3:ちょうど良い、5:過多としたとき、1から5の中で最も当てはまるもの一つを選択
※選択されていない場合は、「3:ちょうど良い」として集計

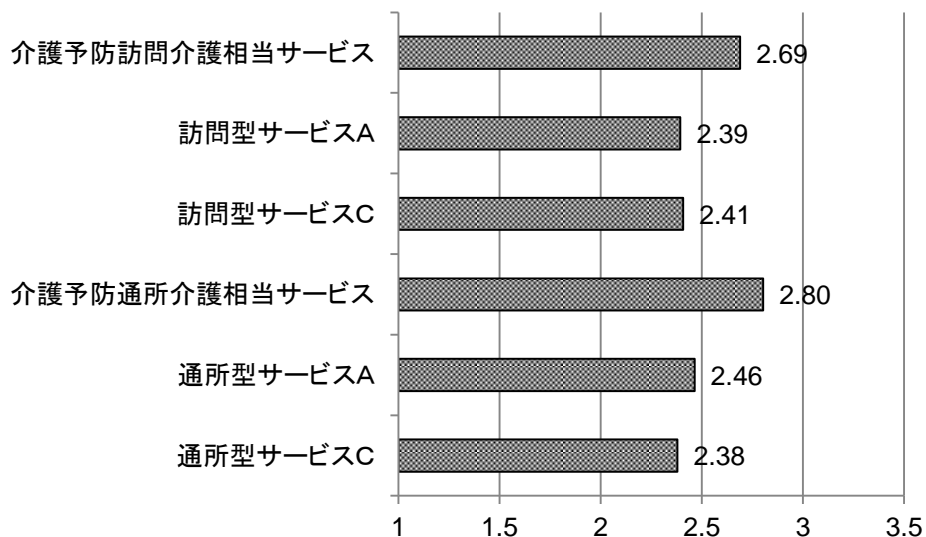
■ 居宅サービス

- 通所介護と福祉用具貸与は充足している。
- 訪問看護や居宅療養管理指導などの医療系サービスについても充足してきている。



■ 介護予防・日常生活支援事業(総合事業)

- 訪問型サービスA・C、通所型サービスA・Cについては、平成29年度から開始したものであるため、充足感もあまり高くない状況である。



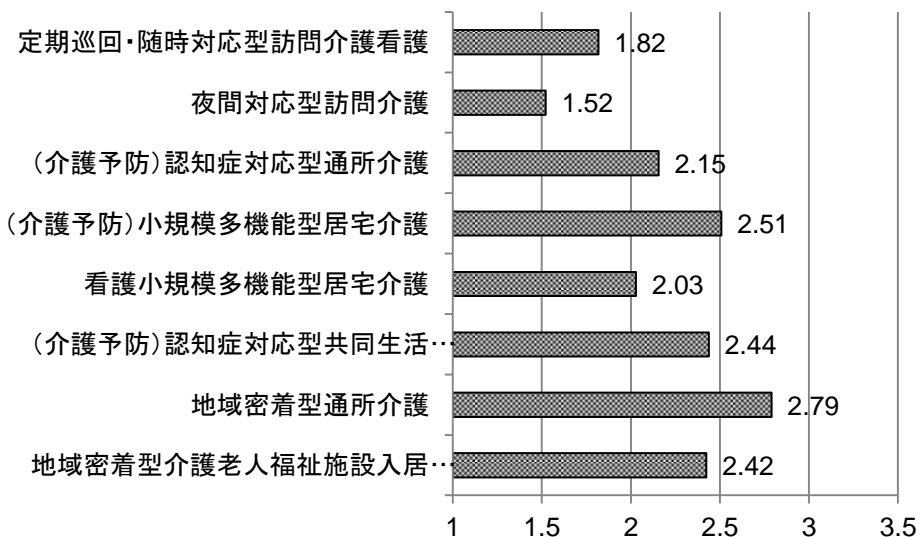
① 居宅介護支援事業所アンケート調査結果

介護保険サービスの量的な充足感

【質問】本市のサービスの量的な充足感について、1:不足、3:ちょうど良い、5:過多としたとき、1から5の中で最も当てはまるもの一つを選択
※選択されていない場合は、「3:ちょうど良い」として集計

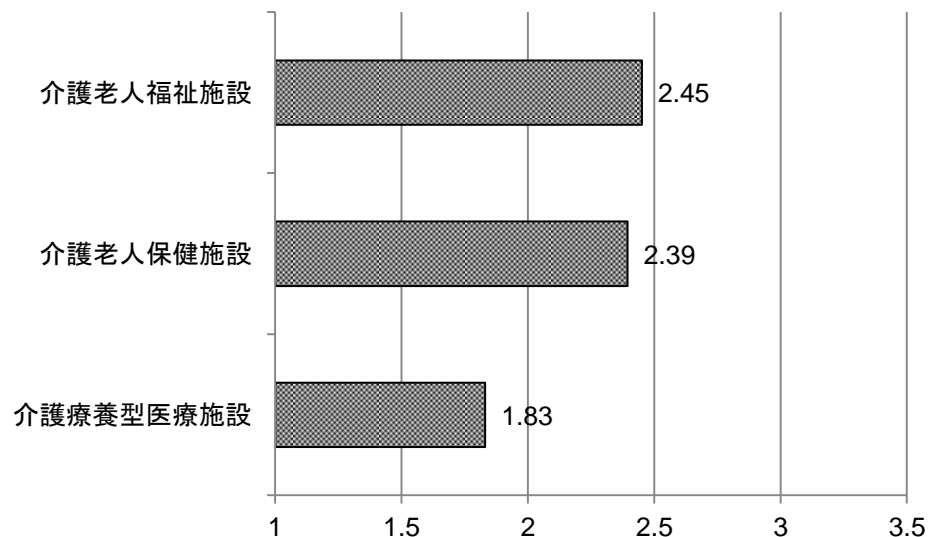
■ 地域密着型サービス

- 地域密着型通所介護を除き、全体的に充足感は低い状況である。
- 国が推進している定期巡回・随時対応型訪問介護看護や看護小規模多機能型居宅介護は、本市で整備が進んでいないため、整備促進に向けた検討が必要である。



■ 施設サービス

- 介護老人福祉施設は今まで待機者が問題視されてきたが、充足感は他のサービスと変わらない程度にまでなった。
- 介護療養型医療施設の設置期限が平成35年度末までとなるため、今後、介護医療院等への転換等が想定される。



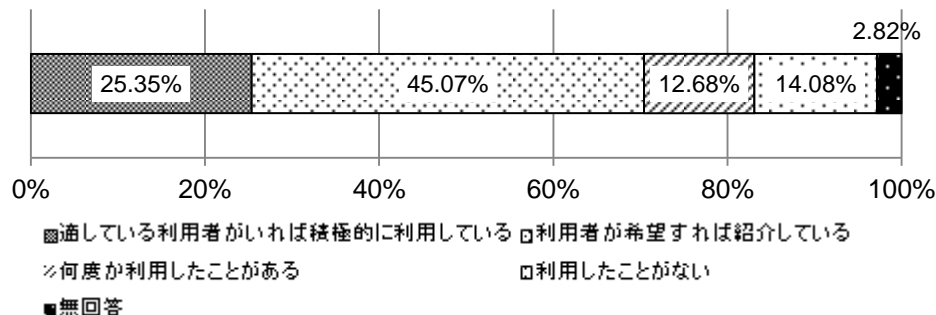
① 居宅介護支援事業所アンケート調査結果

地域密着型サービスについて

■ 小規模多機能型居宅介護

【質問】小規模多機能型居宅介護を、どれくらい利用者に紹介していますか。
(最も当てはまるもの一つ)

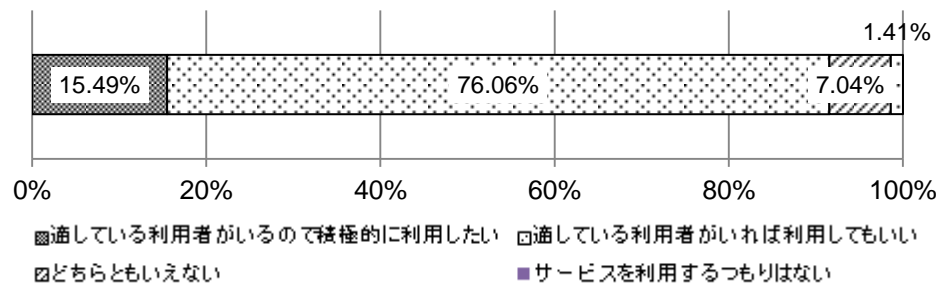
・積極的な利用につながっていないのが現状である。



■ 定期巡回随時対応型訪問介護看護

【質問】定期巡回・随時対応型訪問介護看護があったら、利用したいですか。
(最も当てはまるもの一つ)

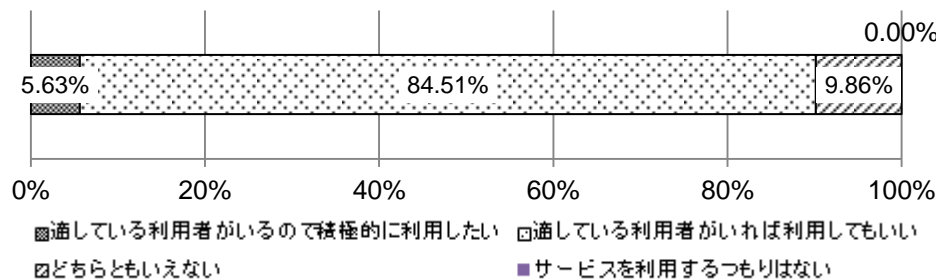
・現段階で適している利用者があるとの回答が15%あり、一定のニーズがあると考えられる。



■ 看護小規模多機能型居宅介護

【質問】看護小規模多機能型居宅介護があったら、利用したいですか。
(最も当てはまるもの一つ)

・在宅生活の限界点を高めるサービスになるため、重度の方がサ高住等に入居してしまう現状では、適した利用者が少ないようである。



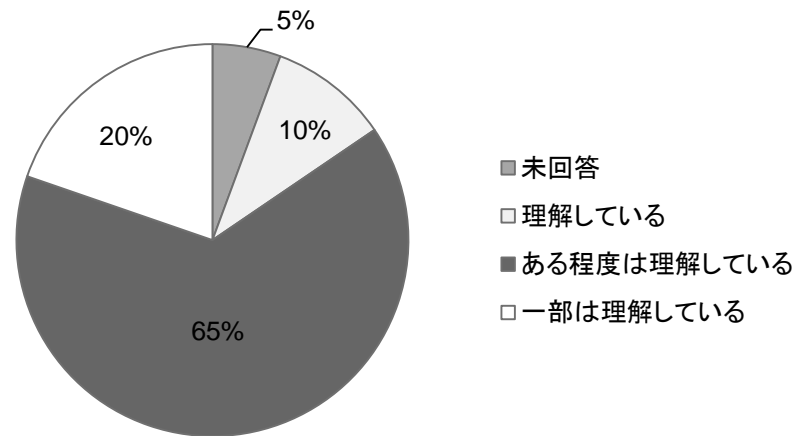
①居宅介護支援事業所アンケート調査結果

総合事業について

■ 総合事業に対する理解度(事業者)

【質問】4月から始まった介護予防・日常生活支援事業の理解度について、最も当てはまるもの一つを選択

・75%の居宅介護支援専門員が総合事業をある程度理解している一方で、20%はあまり理解していない状況である。

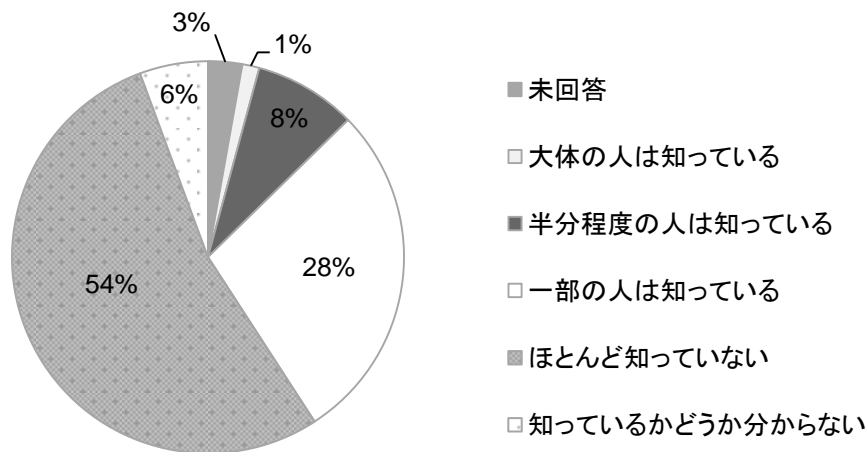


■ 総合事業に対する認知度(利用者)

【質問】4月から始まった介護予防・日常生活支援事業の認知度について、最も当てはまるもの一つを選択

・利用者が「ほとんど知っていない」と回答した人が半数を超え、「一部の人を知っている」を加えると80%を超える。

⇒ 事業周知を継続的に実施する必要がある。



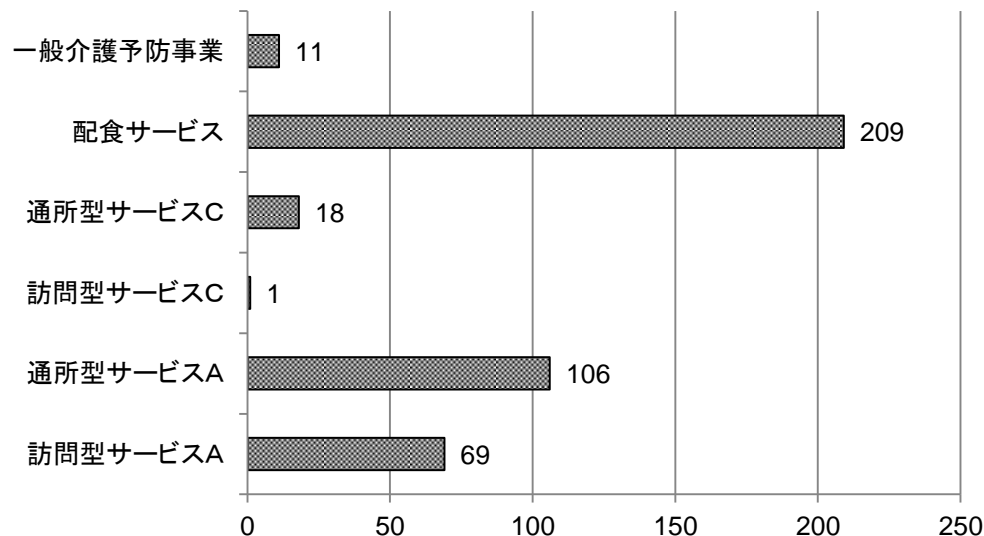
①居宅介護支援事業所アンケート調査結果

総合事業について

■ 利用状況

【質問】予防相当サービス以外でケアプランに位置づけている介護
予防・日常生活支援事業
(利用者1人に対して複数の回答も可)

- ・右に記載のサービスを位置づけているのは343人
- ・配食サービスの利用が伸びている一方で、短期集中型のサービスの利用は進んでいない。



■ サービスを位置づけていない理由

【質問】サービスを位置づけていない理由として最も当てはまるもの
一つを選択

- ・利用者に適したサービスがないが圧倒的に多い。
- ・サービスの利用の仕方が分からないや利用者等の認知度が低い等、サービスが浸透していないため利用にもつなげていない。

